

## 林甸地区におけるツル類の渡りの研究と保護

李金録・程彩雲・馬一濱

黒龍江省野生動物研究所

訳 福井和二

黒龍江省林甸地区はツル類の重要な渡りの中継地で、我が国に生息する9種類のツル類のうち6種類をみることができる。すなわち、タンチョウ (*Grus japonensis*), マナヅル (*G. vipio*), クロヅル (*G. grus*), ナベヅル (*G. monachus*), ソデグロヅル (*G. leucogeranus*), アネハヅル (*Anthropoides virgo*) である。研究者の資料によると現在タンチョウ, マナヅル, クロヅルは毎年春秋の渡りの季節に多くの個体がこの地に留まり、そのうちの幾つかが繁殖している。しかし、林甸地区のツル類の渡りに関する報告は見ることができない。筆者らは1981年3月から1986年11月までこの地区のツル類の渡り状況について観察研究したので報告する。

### 1. 自然概況

林甸県は黒龍江省松嫩平原西南の烏裕ル河下流、北緯46°44' ~ 47°29', 東経124°18' ~ 125°21', 総面積約37万ha, そのうちアシ原湿地水域面積2.5万ha, 草原14万ha, 森林1.5万ha, 残りは農耕地である。景観は典型的な平原地帯で、平坦で開けている、海拔は150m内外、高低差はなだらかで、排水は悪く、水資源としては豊かである。地質構造は第四期沖積層と沈積層によって連続的に形成されている。土壌は主に炭酸塩湿地アルカリ性腐植土、薄層腐植土、薄層砂質土と泥炭腐植土並びにアルカリ土壤草原からなる。草原は主にチカラシバ (*Pennisetum alopecuroides*), 星星草 (*Puccinella tenuiflora*)<sup>1)</sup> などである。沼沢には浮草、苔類、ヨシなどがある。水生植物にはマツモ (*Ceratophyllum demersum*), セキシヨウモ (*Vallisneria spiralis*), ヒツジグサ (*Nymphaea tetragona*), ヨシ, ガマなどがある。

この地方は大陸性寒帯、乾燥気候で年平均温度2.4°C, 7月の平均気温22.6°C, 1月の平均気温-21.3°C, 平均降水量241mm, 蒸発量は降水量の4倍、春に雨が少なく、夏から秋にかけ雨量が多く、春早夏潤を特徴とする。

野生動物の種類は多く、鳥類は1983年の調査によると188種(16目36科)であった。6種のツル類を除いて主なものは、コウノトリ, ナベコウ, クロトキ, ヘラサギ, ムラサキサギ, アオサギ, オオハクチョウ, コハクチョウ, ノガン, サンカノゴイ, オオバン, オシドリ, イヌワシ, ヨシキリ, ガンカモ類等である。

魚類はフナ, コイ, ドジョウ, ライギョ等40種, 両生類ではガマ, アマガエル, アカガエル林蛙 (*Rana japonica*) 等5種, 哺乳類ではチョウセンイタチ, ネズミ類, ノロ, 黄羊ホワンヤン (*Prodcas gutturosa*) 等20種, 爬虫類はヘビ, トカゲ等3種である。

### 2. 調査方法

時間: 1981年~1986年3月初旬より5月下旬まで, 秋10月初旬より11月初旬。

場所: 黒龍江省野生動物研究所林甸県湿地草原野外実験ステーション。実験ステーションの所在位置は北緯47°10' 東経124°26'。

方法: 日出後8mの高さの観察台で40倍と10倍の望遠鏡で1~2時間観察, 種と数量を記録。

### 3. 結果

1981年~1986年林甸地区で毎年春, 6種のツルが北へ渡る状況を記録したものが表1である。表1の結果により6種類のツルのうち, 春季最も早く林甸地区に現れるのはタンチョウで, 3

月7日～18日の間に初めて出現する。その総数は57～88羽で、毎年この地で繁殖するものは10～15対、繁殖のためこの地に留まる日数は227日～241日である。

表1 1981～1986年林甸地区6種類のツル類の春の渡り状況

日 期 及 数 量  種 類	観 察 初 日						総 数 (羽)						停 留 時 間 (日)											
	81年		82年		83年		84年		85年		86年		81年		82年		83年		84年		85年		86年	
	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日	月・日
タンチョウ <i>G. japonensis</i>	3.18	3.14	3.17	3.9	3.16	3.7	57	68	71	79	88	75	237	235	227	239	234	241						
マナヅル <i>G. vipio</i>	4.1	4.3	3.20	3.26	3.25	3.21	42	39	48	47	38	36	208	210	212	205	203	214						
クロヅル <i>G. grus</i>	4.6	4.10	3.30	4.2	4.1	4.5	21	34	31	26	47	41									215	208		
ナベヅル <i>G. monachus</i>	4.10	4.12	4.1	4.6	4.9	4.15	29	47	51	42	38	57	16	18	15	19	17	21						
ソデグロヅル <i>G. leucogranus</i>	4.2	4.5	3.22	4.3	4.6	4.10	121	169	217	570	531	525	59	57	51	56	55	50						
アネハヅル <i>A. virgo</i>	4.3	4.1	4.5	4.10	4.8	4.2	21	23	16	38	21	49	10	3	6	11	13	8						

マナヅルはそれより僅かに遅く3月20日～4月1日の間に飛来し、その数量は36～48羽、繁殖するものは10対ほどで、滞留期間は203～214日である。

クロヅルは3月30日～4月10日に渡来する。1981年～1984年は繁殖しているものを探し当てることができなかつた。1985年と1986年には1対が繁殖し、巣と卵を確認した。繁殖滞留期間は215日と208日である。

ナベヅルは4月1日～4月15日に渡来し、春の滞在日数は15～21日、その数は29～57羽である。

アネハヅルは3月29日～4月10日初観察、滞在日数3～17日、数は16～38羽である。

ソデグロヅルは3月22日～4月10日で、滞在日数は、渡りの中継地として林甸地区を利用するものとしては最も長く50～59日、数も6種類のうち最も多く121～531羽で、滞在中は家族群がまとまって大群で行動する特徴がある。

1981年～1986年の林甸地区における秋季のツル類の渡り状況を表2に示す。

表2により6種類のツルは10月上旬から中旬にかけて南に向かって渡りを始めることが見られる。10月下旬から11月上旬には渡りが完結する。林甸市東北約10kmの瓢箪形軍馬牧場とその草原地帯にナベヅルの秋の主要な渡り中継地があり、半月ほど滞在する。1981～1986年の観察数は207～482羽であった。タンチョウ、マナヅル、クロヅル、ソデグロヅル、およびアネハヅルの秋季の渡りに林甸地区を中継地として利用する数は春に比べて少ない。

#### 4. 渡りの特性

1) 林甸地区はタンチョウ、マナヅル、クロヅル、ソデグロヅル、ナベヅルとアネハヅルは毎年春秋に家族群または、小群で渡来し、重要な中継地となっている。

2) タンチョウ、マナヅル、クロヅル、ソデグロヅルとアネハヅルは春の渡りに対して秋の渡りは少ない。

3) ナベヅルは春の渡りに比較して秋の渡りは滞在日数も個体数も多く、秋季では最多数482

羽、春季は最多数57羽である。

4) ソデグロヅルは春季滞在期間56日、最多数570羽であった。

5) タンチョウ、マナヅル、クロヅルは林甸地区で繁殖している。

表2 1981~1986年林甸地区に置ける6種のツル類の秋の渡り状況

	観 察 初 日						最 終 観 察						总 数 量 (只)					
	81年	82年	83年	84年	85年	86年	81年	82年	83年	84年	85年	86年	81年	82年	83年	84年	85年	86年
	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日						
タンチョウ G. japonensis	10.15	10.20	10.18	10.6	10.11	10.3	10.30	11.4	10.29	11.2	11.5	11.3	36	48	27	38	31	29
マナヅル G. vipio	10.17	10.5	10.10	10.20	10.7	10.14	10.27	10.25	10.30	10.28	10.29	10.26	30	41	36	49	21	28
クロヅル G. gus.	10.12	10.6	10.19	10.21	10.3	1.15	10.20	10.23	10.28	10.15	10.26	10.22	11	17	16	21	28	14
ナベヅル G. monachus	10.18	10.17	10.2	10.20	10.4	10.6	10.28	10.26	10.20	10.30	10.18	10.27	207	314	457	482	465	417
ソデグロヅル G. leucogranus	10.11	10.3	10.21	10.6	10.15	10.10	10.20	10.16	10.30	10.28	10.21	10.30	5	8	11	7	16	26
アネハヅル A. virgo	10.5	10.11	10.16	10.13	10.20	10.8	10.10	10.16	10.26	10.21	10.25	10.18	2	3	11	9	10	8

5. 保護問題

すでにわかっていることであるが、林甸地区と北戴河地区は重要な、我が国における春秋の渡り鳥の中継地である。人類により自然の開発、利用が進み、ツル類が生存するために頼るべき環境が少しずつ変化し、ツル類の安全な生活が失われようとしている。以下の問題について特別に注意する必要がある。

1) 林甸地区の沼沢、水域地帯は1987年4月扎龍ザロン国家級保護区の範囲内に編入されたが、しかし、現在では元のまま無人の管理状態であり、毎年春わずかな人であるがツルの卵を拾い集めたり、雛を捕獲するようなことが今なお行なわれている。関係管理機関は、自然保護の専門員を補充して、このような環境破壊行為を取り締まり、健全な保護管理を行なうべきである。

2) 林甸地区の沼沢、湿地地域はヨシの重要な生産地で、近年ヨシの生産量が次第に多くなり、生産量を上げるためヨシ原に工作が施され、農業や肥料さえも投入されている。これはツル類の生存と繁殖に重大な影響を与えている。関係機関はこの問題に注意をすべきである。

3) 関係機関は林甸地区におけるツル類の情報について掌握すべきで、今後の渡りの数量の変化など科学的研究と保護管理を強化すべきである。

訳注

\*1 星星草 (*Puccinella tenuiflora*) ; 朝鮮碱茅 *Puccinella chinampoensis* と同種、東北三省と朝鮮に分布する。